

# 札幌水道ビジョン 《概要版》 (案)

皆さまからのご意見を募集します

募集期間

平成 26 年 12 月 22 日 (月)  
～平成 27 年 1 月 23 日 (金)

水道は市民生活と都市活動に欠かすことのできない重要なライフラインです。札幌市はこれまで、安全で良質な水を安定して供給するという使命を果たしていくために、「安全」「安定」「利用者満足」「健全経営」という4つの目標を定め、計画的に事業を進めてきました。

そうした中、近年は、人口減少社会の到来や東日本大震災の発生に伴う危機管理対策、エネルギー政策の見直しなど、水道を取り巻く社会経済情勢が大きく変化しています。

また、水道局が実施した将来の水量推計では、平成 27 (2015) 年度をピークとして、水需要の予測値が初めて減少傾向となる見通しとなりました。

このような状況を踏まえ、将来にわたって持続可能な水道システムを構築していくため、長期的な視点に立った取組の方向性や今後 10 年間に進めていく具体的な取組をまとめた「札幌水道ビジョン」を策定することとしました。

このたび、計画案をまとめましたので、皆さまからのご意見を募集します。

札幌市水道局

市政等資料番号  
01-N04-14-1849

ビジョンの位置づけ . . . . . 3

**構 想 編**

基本理念と目標 . . . . . 4

札幌水道の主な課題 . . . . . 4

今後の事業環境と事業展開の考え方 . . . . . 6

**施 策 編**

今後 10 年間の取組姿勢 . . . . . 9

重点取組項目 1 水源の分散配置と水質の安全性の向上 . . . . . 10

重点取組項目 2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化 . . . . . 11

重点取組項目 3 利用者とのコミュニケーションの充実 . . . . . 13

重点取組項目 4 経営基盤の強化と連携の推進 . . . . . 14

重点取組項目 5 エネルギーの効率的な活用 . . . . . 15

財政収支見通し . . . . . 16

皆さまからのご意見を募集します . . . . . 17

## ビジョンの位置づけ

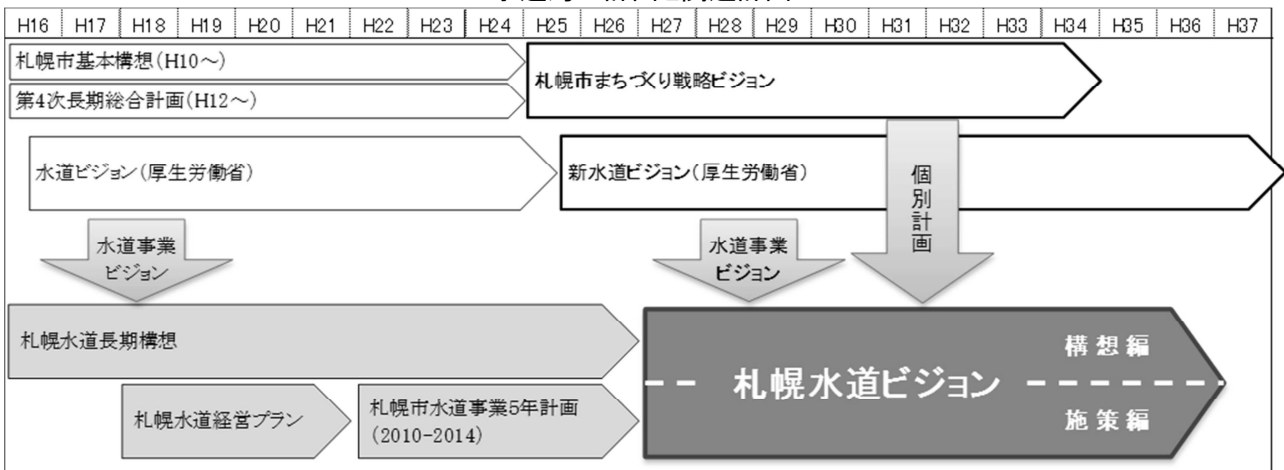
札幌水道ビジョンは、これまでの「札幌水道長期構想」と「札幌市水道事業5年計画」を一体化したものであり、水道事業の理念や目標を「構想編」、目標を達成するための具体的な取組を「施策編」とする、2編構成の計画です。

計画期間は平成27年度(2015年度)から平成36年度(2024年度)までの10年間です。

このビジョンは「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の基本的な方向に沿って策定する水道についての個別計画として位置付けます。

また、厚生労働省が全国の水道事業体に策定を求めている「水道事業ビジョン」(長期的視点を踏まえた戦略的な水道事業の計画)に位置付けます。

水道局の計画と関連計画



## 特色

### 1 水需要減少期への挑戦

今後の人口減少等に伴う水需要減少期における施設の大規模更新などに向けて、これまで築いてきた水道システムを次世代に適切に引き継ぐために、今後の施設整備の方向性と財務基盤の強化について示しました。

### 2 パートナーシップの醸成

利用者の信頼性向上や業務の効率化、技術力の確保・向上、災害対応力の強化など、さまざまな取組を効果的・効率的に進めていくために、利用者や出資団体、民間企業、他の水道事業体、教育・研究機関など多様な主体とのつながり(パートナーシップ:連携)をより一層意識した計画としました。

### 3 恵まれた自然の活用

自然の恵みである再生可能エネルギーを利用する水力発電の導入、豊平川扇状地などの自然の地形を生かした施設の配置による省エネルギー化など、世界に誇る環境首都・札幌の実現につながる取組を盛り込みました。

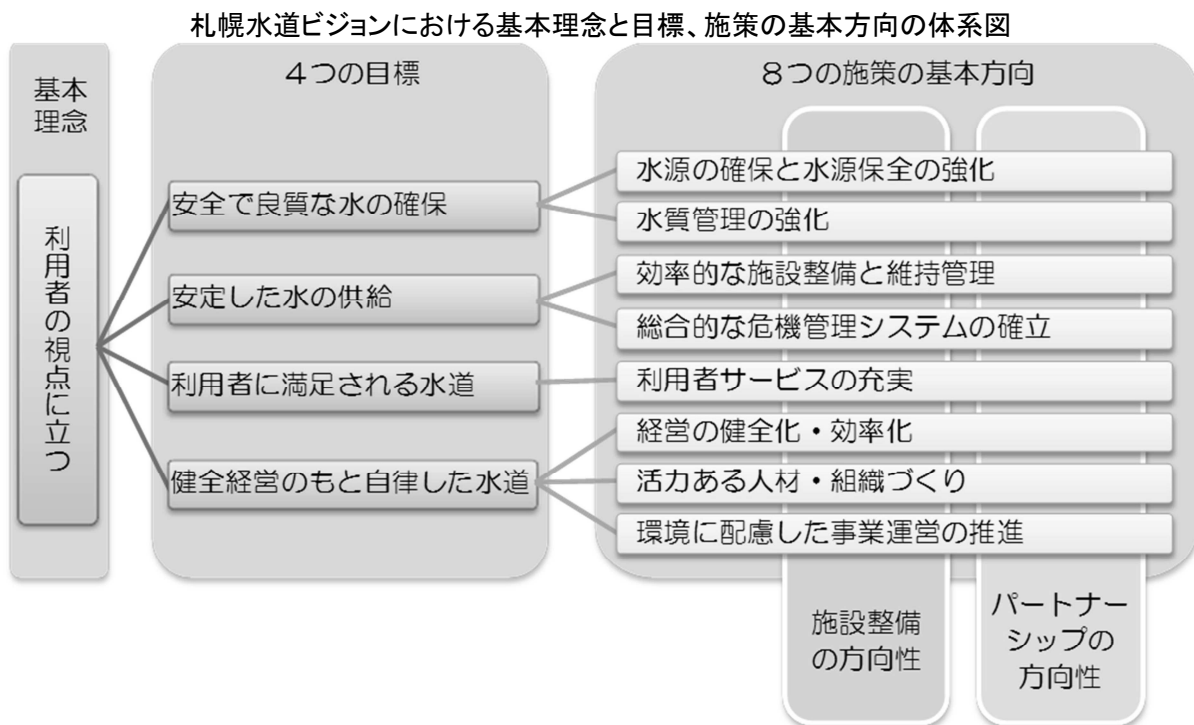
## 構想編

### 基本理念と目標

「札幌水道長期構想」の基本理念と4つの目標は水道事業にとって普遍であり、50年、100年後の札幌水道においても継続して達成することが重要であることから、これらの理念と目標は札幌水道ビジョンでも継承していきます。

また、「札幌水道長期構想」では目標を実現するために8つの施策の基本方向を示し、さまざまな取組を進めてきました。

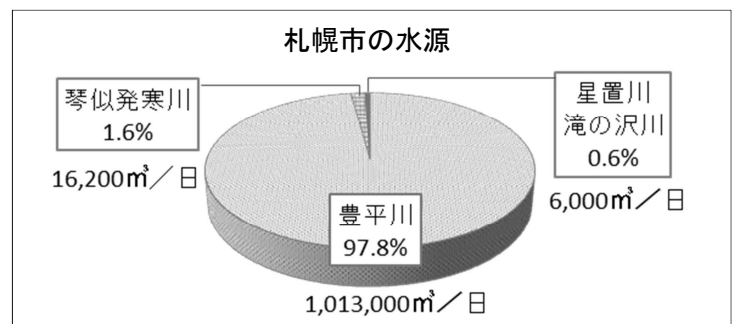
札幌水道ビジョンにおいても施策の基本方向を踏襲しつつ、現状と課題や今後の事業環境を踏まえ、社会経済情勢の変化に対応するため、施設整備とパートナーシップ（連携）の方向性を盛り込んだ取組を進めていきます。



### 札幌水道の主な課題

#### 水源・水質

- 豊平川への依存度が高く、水源の一極集中状態の改善が必要
- かび臭や油の流入のほか、局所的な豪雨に伴うがけ崩れによる急激な濁度上昇への対策
- 水質悪化を未然に防止するため、関係機関や水源域の事業者、市民との連携による水源保全の取組継続
- 浄水処理技術の向上など、水質管理の強化



## 水道施設

- 浄水場の改修工事中も安定給水を継続するために必要な供給能力の確保
- フェンスや門扉などの改修による施設の保安強化の計画的な推進
- 耐震化のさらなる推進
- 業務継続計画（BCP）の策定
- ブロック配水システムの機能向上

施設の耐震化の状況(平成 24 年度末現在)

	札幌市	全国
浄水施設の耐震化率	18.6%	21.4%
配水池の耐震化率	66.5%	44.5%
基幹管路の耐震適合率	36.6%	33.5%

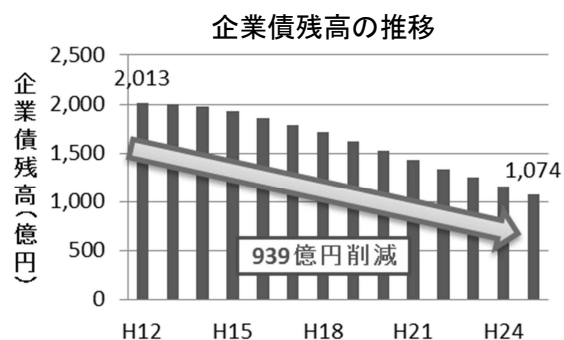
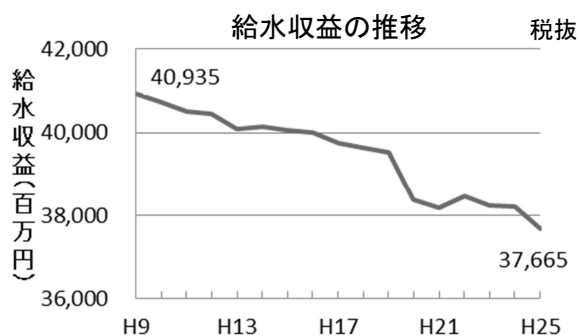
厚生労働省ホームページ「水道施設の耐震化の推進」より

## 利用者サービス

- 小規模貯水槽水道の衛生管理の徹底
- 給水装置に起因する水質汚染の防止
- 給水装置の多様化による逆流防止対策の強化
- 利用者の声を積極的に聞き取り、事業運営に反映させる仕組みの充実

## 経営

- 給水収益の減少と事業費の増加
- 財務基盤の強化の継続



## 環境

- 再生可能エネルギーのさらなる活用



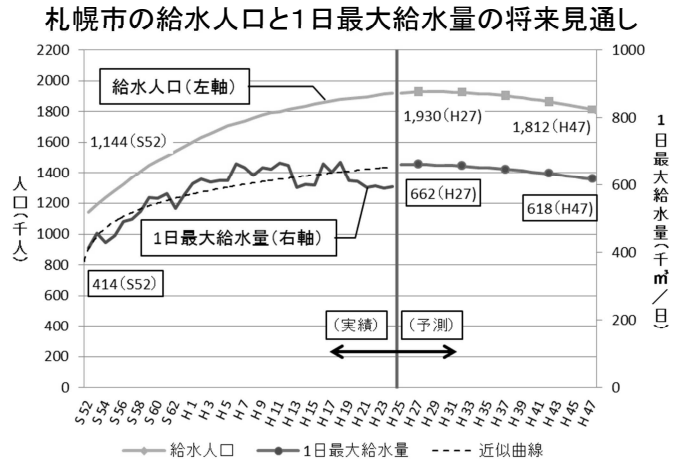
藻岩浄水場の水力発電設備



配水センターの太陽光発電設備

1 人口減少社会の到来と水需要の減少

- 札幌市の人口は平成 27 年（2015 年）前後をピークに減少傾向に転じると予測
- 将来水量の推計では、平成 27 年度（2015 年度）をピークとして水需要の予測値が初めて減少傾向となる見通し
- 水需要の減少に伴う施設規模の適正化が必要



2 東日本大震災の教訓

- 施設の耐震化や多重化のほか、被災時に応急復旧のための資器材や浄水場で使用する薬品等を調達可能とする体制など災害対策のさらなる充実が必要
- 家庭での飲料水備蓄の推進など、市民との連携や広報活動の充実が重要
- 低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向けたエネルギー面での取組の推進が必要

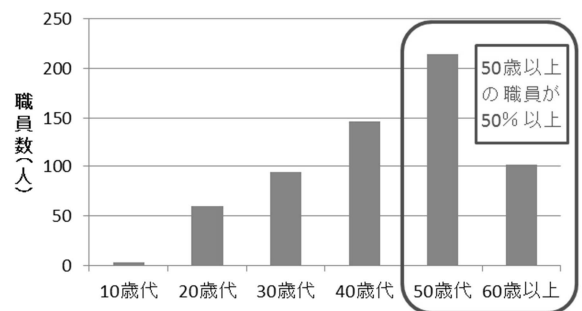
3 施設の大規模更新期の到来

- 水道創設からまもなく 80 年を迎え、今後初めての大規模更新期を迎える
- 更新に当たっては将来の水道システム全体を見据えた総合的な検討が必要
- 更新事業を担う人材を確保するため、出資団体や民間企業、教育・研究機関などとの連携による人的資源の確保が必要

4 技術力低下のおそれ

- 水道局の職員構成は 50 歳以上の職員の割合が 50%以上を占め、技術やノウハウを次世代の担い手へ確実に継承していくことが必要
- 水道事業は多くの企業等にも支えられており、関係団体との連携をさらに強化することが重要
- 水道全体の持続的な発展の観点から、北海道内の他水道事業体の課題解決に向けて取組を進めていくことが必要

水道局職員の年代別職員構成

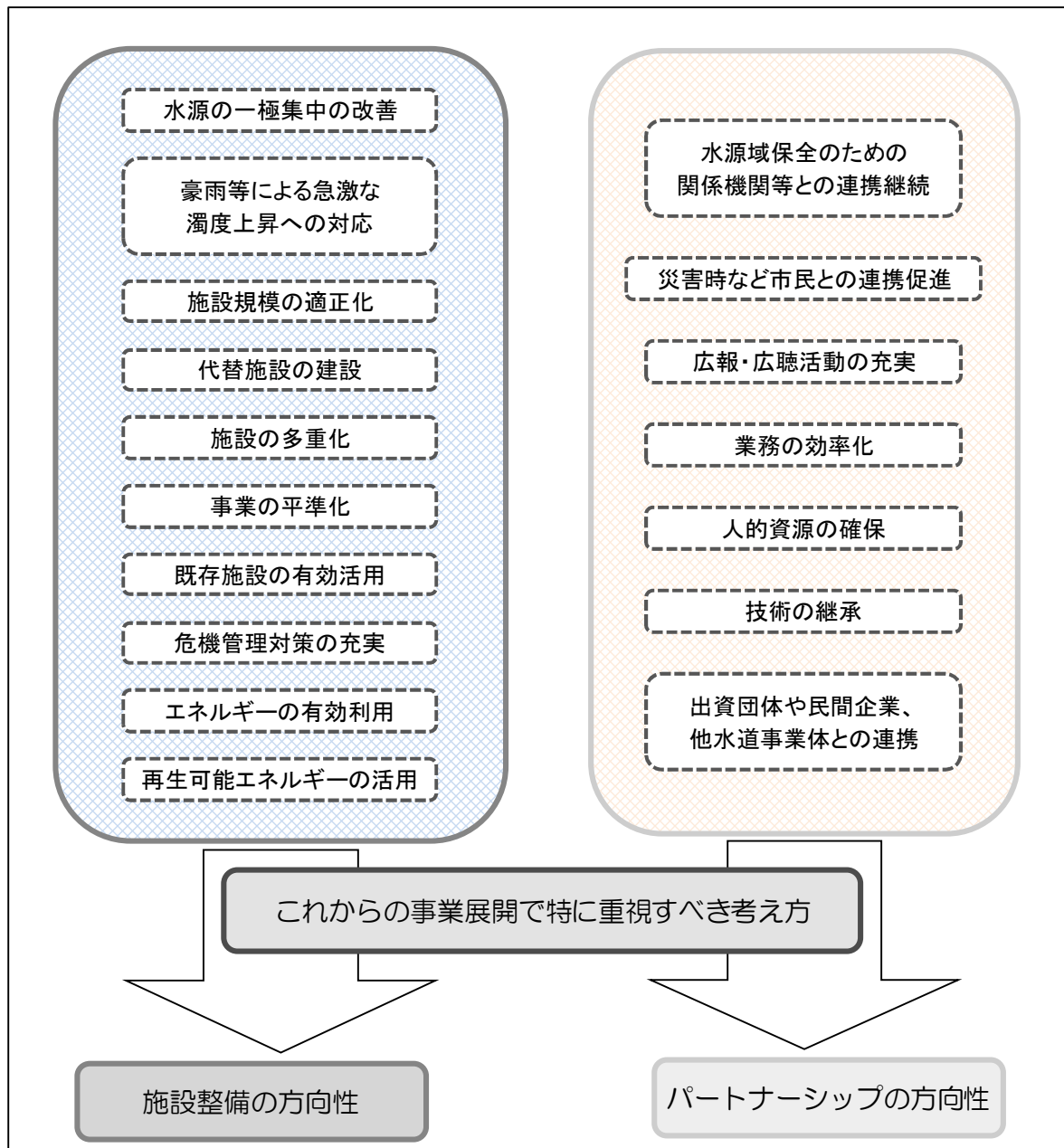


## 次世代水道に向けた考え方

市民の生命や健康に直接関わる水道事業は、地方公営企業による運営を前提として、さまざまな課題に的確に対応し、柔軟かつ効果的に事業を進めていく必要があります。

そのため、「次世代に引継いでいく施設の整備」と「さまざまな課題の解決に有効な手段となるパートナーシップ（連携）の活用」をこれからの事業展開において特に重視すべき考え方と位置付け、それらの取組の方向性を以下にまとめました。

### これからの事業展開で特に重視すべき考え方につながる課題



## 施設整備の方向性

### <視点Ⅰ>安全で安定した安心感のあるシステム

- 水源・浄水機能の分散配置
- 耐震化の推進
- 水源の水質の保全
- 応急給水施設の充実
- 適切な浄水処理技術の導入

### <視点Ⅱ>将来へ引き継ぐための持続可能なシステム

- 適切な施設規模の確保
- 長寿命化・延命化
- 代替能力の確保・多重化
- 更新事業の平準化
- 供給予備力の確保

### <視点Ⅲ>自然の恵みを生かした効率のよいシステム

- エネルギー効率のよい施設配置
- 再生可能エネルギーの活用（水力、太陽光）
- 最新技術と効率的な運営形態の導入検討

## パートナーシップの方向性

### <視点Ⅰ>利用者とのパートナーシップ

- 水道事業に関する情報共有や意見交換などの推進
- 利用者との連携による危機管理体制の構築

### <視点Ⅱ>事業運営におけるパートナーシップ

- 委託業務の範囲や内容の見直し
- 連携による人的資源の確保

### <視点Ⅲ>次世代に向けたパートナーシップ

- 共同研究、研修会の実施
- 最新の技術や事業手法などの検討

### <視点Ⅳ>道内水道事業体とのパートナーシップ

- 技術情報の共有化
- 共同研究会や技術研修会の開催
- 災害対応の充実
- 水道サービス協会などとの連携による発展的広域化

### <視点Ⅴ>海外とのパートナーシップ

- 国際貢献の推進
- 寒冷地水道に適した技術を生かした技術交流や海外展開



今後 10 年間の取組のキャッチフレーズ

実感できる札幌水道

蛇口をひねれば安全で良質な水がいつでも出てくることを感じ、  
安心・満足していただくことを目指します。

今後 10 年間の取組のキーワード

・ じせだい(次世代)

次の世代においても安定して水をお届けするために、  
水源の分散配置や水質の保全、施設の更新・改修、災害  
対策に取り組みます。また、それらに対応するために財  
源や技術力の確保に努めます。

・ つながる(繋がる)

利用者、共に水道を支える出資団体や民間企業、教  
育・研究機関とのパートナーシップ、北海道の中心都市  
として水道事業を発展させる役割を果たすための他水  
道事業体とのパートナーシップにより、安定した事業運  
営に努めます。

・ かんきょう(環境)

地形を有効利用した施設づくりなどによって大都市  
でもトップクラスの環境にやさしい水づくりを行って  
おり、今後も「環境首都・札幌」として、さらなる環境  
負荷の低減に努めます。

じっかん指標の設定

「安全で良質な水を供給し、利用者の視点に立った事業運営を展開していく」ことを、  
利用者の皆さまに実感し、満足していただけているかを確認するため「じっかん指標」を  
決めました。

◎安全で良質な水道水が届いていることの満足度

目標 96% (平成 25 年度実績 93%)

○お客さまサービス(問い合わせ対応・広報)の満足度

目標 85% (平成 25 年度実績 70%)

○「水道水のおいしさを実感するきき水」の体験者数

目標 平成 27~36 年度の 10 年間で延べ 50,000 人

## 重点取組項目と事業の実施計画

今後対処すべき課題を踏まえ、5つの重点取組項目を設定し、これらに沿って15の主要事業を進めていきます。

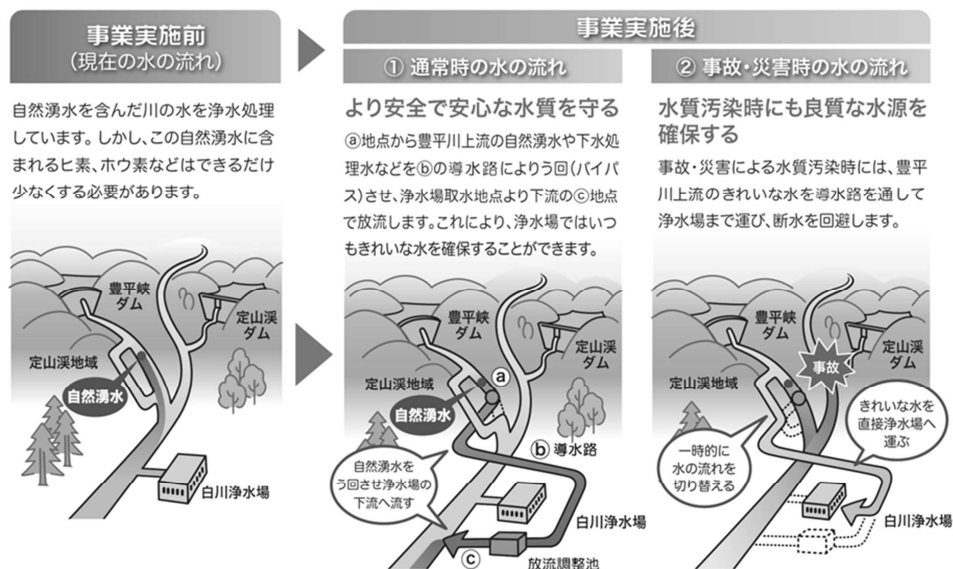
### 重点取組項目1 水源の分散配置と水質の安全性の向上

将来にわたって事故や災害に強い水道システムを構築するため、水源の約98%を依存している豊平川の他にも安定した水源を確保します。また、安全で良質な水をいつでもお届けできるよう、水源の水質保全や水質監視・管理を継続するとともに、水質へのさまざまなリスクに適切に対応します。

#### 主要事業1 水源の水質保全

次世代 つながる 環境

豊平川上流域における通常時の水質悪化の要因を取り除くとともに、事故・災害発生時においても良質な水を確保することを目的として、豊平川水道水源水質保全事業を実施します。(平成32年度(2020年度)完成予定)



#### 主要事業2 水源の分散配置

次世代 つながる 環境

札幌市は、水源の約98%を依存している豊平川以外に安定した水源を確保するため、当別ダムを水源として水道水を供給する石狩西部広域水道企業団に北海道、小樽市、石狩市、当別町とともに参画しており、将来、1日当たり最大44,000 m<sup>3</sup>の水道水を受水する計画です。平成37年度(2025年度)からの受水に向けて、引き続き企業団の運営に協力していきます。

#### 主要事業3 水質監視・管理

次世代 つながる 環境

安全で良質な水道水をいつでもお届けするために、水源パトロールや水質自動監視装置による水源から蛇口までの水質監視・管理を継続するとともに、水質に影響を及ぼすおそれのあるリスクに適切に対応します。

また、市民と連携した水源保全の取組を継続します。

【指標】水質基準不適合率 0.0%(H25)⇒0.0%(H36)



水源パトロール

## 重点取組項目2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化

将来の水道システムを見据えた計画的で効率的な施設の更新や維持・保全に取り組みます。また、事故や災害時にも被害を最小化し、水道水を安定して供給できるよう、施設の耐震化や危機管理体制の強化を進めます。

### 主要事業4 取水・導水・浄水施設の改修

次世代 つながる 環境

白川浄水場は、第1・第2・第3の3つの浄水場からなる札幌市最大の浄水場です。場内の多くの施設で耐震性能が不足しているとともに経年劣化が進んでいることから、約25年をかけて段階的に改修を行います。

また、エネルギー使用量の削減を目指し、原水を豊平川から取り入れる地点を見直して、自然流下を有効に活用できる取水導水施設を整備します。

### 主要事業5 送水システムの強化

次世代 つながる 環境

白川浄水場で作られた水道水を平岸配水池と清田配水池に送り届ける白川第1送水管と白川第2送水管は経年劣化が進み、耐震性能も不足しています。そのため、これらの更新に備え、送水ルート多重化や耐震化を目的とする白川第3送水管の新設を実施します。(平成30年度(2018年度)完成予定)

【指標】送水管の耐震化率

10.3% (H25) ⇒ 27.6% (H36)

送水管布設位置図



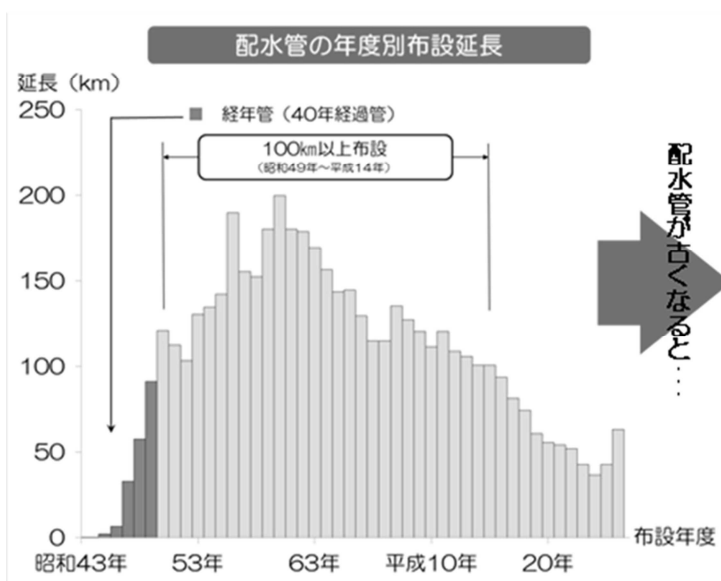
### 主要事業6 配水管の更新

次世代 つながる 環境

札幌市内には5,900kmにも及ぶ配水管が布設されており、配水管の延命化と事業量の平準化を図りながら効率的に更新を実施していきます。

また、更新の際には耐震管を用いることで地震に強い水道管網を構築します。

泥炭や粘土などの金属を腐食させやすい土壌(腐食性土壌)に布設されている場合には、管の外面に穴があき、漏水を引き起こすことがあります。



## 主要事業7 水道施設の効率的な維持・保全

次世代 つながる 環境

施設を適切に保守点検し、計画的に更新することにより、水道システムの維持・保全を効率的に行います。

また、高台地区に水を供給するための高区配水施設（ポンプ場や高区配水池）については、安全性や機能性のさらなる向上を図るため、省エネルギー化に留意しつつ、送水機能や施設構造の改良を進めます。

## 主要事業8 耐震化の推進

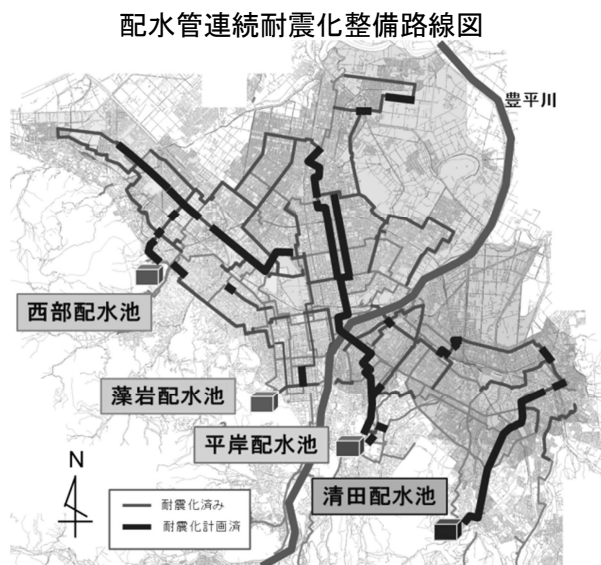
次世代 つながる 環境

地震による施設の被害を最小限に抑えるため、浄水場や配水池の耐震化を進めるとともに、4つの基幹配水池（藻岩、平岸、清田、西部）からそれぞれの配水区域末端までをつなぐ基幹となる配水幹線を切れ目なく耐震化します。

また、災害時における重要施設である医療機関や学校などの収容避難場所へ向かう配水管の耐震化を進めます。

【指標】 配水幹線の耐震化率

38.5% (H25) ⇒ 43.0% (H36)



## 主要事業9 応急給水対策と保安の強化

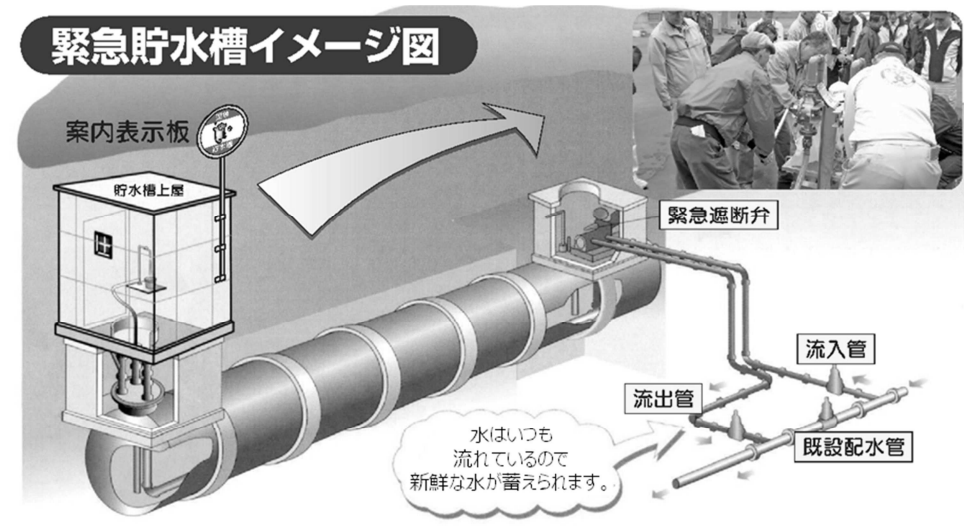
次世代 つながる 環境

緊急貯水槽や緊急遮断弁を整備するほか、学校などの収容避難場所に応急給水栓を設置します。

また、施設への侵入者による水道水の汚染などを防ぐため、フェンスや門扉などの保安施設を改修しセキュリティを強化します。

このほか、緊急貯水槽の見学会や応急給水活動の体験会を行い、市民との連携による防災力の向上を図ります。

【指標】 給水拠点密度 15.2カ所/100km<sup>2</sup> (H25) ⇒ 28.4カ所/100km<sup>2</sup> (H36)



### 重点取組項目3 利用者とのコミュニケーションの充実

水道事業の経営を支えるオーナーである利用者との双方向のコミュニケーションを充実し、ニーズを的確にとらえるとともに、安全で良質な水をいつまでもお届けするために進めている水道局の取組を理解していただき、安心・満足できる水道を目指します。

#### 主要事業10 利用者とのコミュニケーションの充実

次世代 つながる 環境

水道記念館などの広報拠点・媒体を活用し、札幌の水道水のおいしさをPRするほか、水道事業への理解を深める取組を進めます。

また、利用者の意見を事業運営に生かすため、直接対話できる機会を増やすほか、水道水とミネラルウォーターなどを飲み比べる「きき水」体験を展開し、利用者とのコミュニケーションの充実を図ります。



きき水体験の様子

さらに、家庭での飲料水の備蓄など、災害に備えた広報活動に力を入れていきます。

【指標】飲料水を備蓄している人の割合 50% (H25) ⇒ 70% (H36)

#### 主要事業11 小規模貯水槽水道や給水装置の適切な管理の支援

次世代 つながる 環境

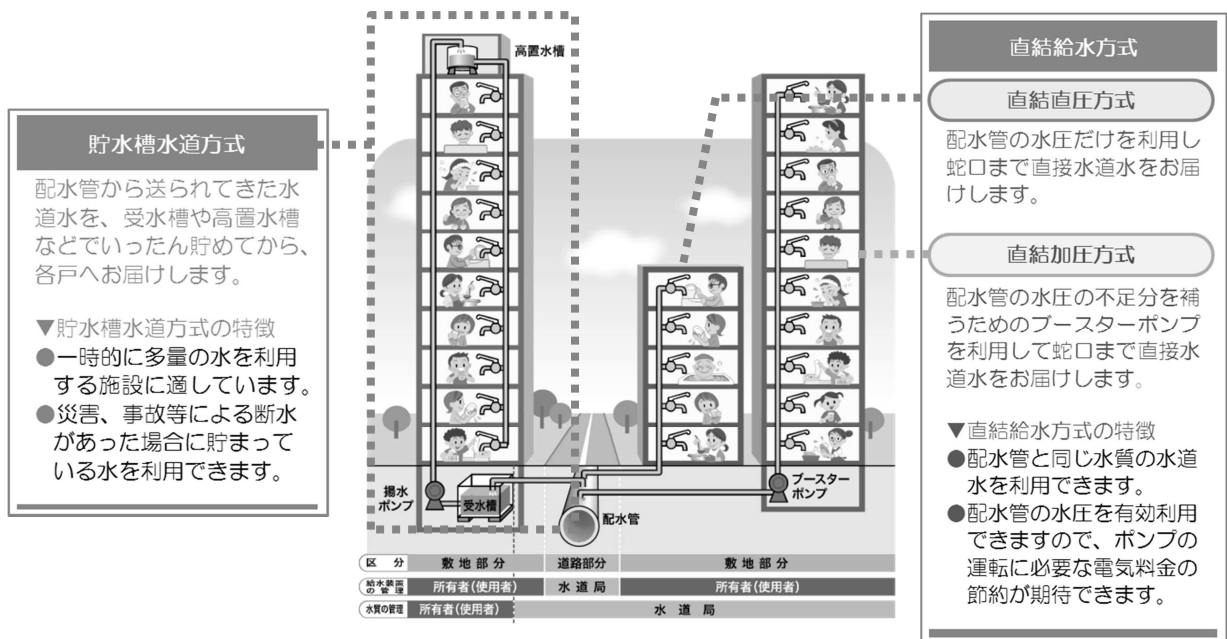
小規模貯水槽水道の不適切な管理による水質汚染事故等を未然に防ぐため、訪問調査を実施し、衛生管理の意識向上を図ります。

また、直結給水方式への切替えが可能な利用者へ直結給水の普及促進を図ります。

危険物を取り扱うガソリンスタンド等の石油取扱業やクリーニング業などの施設に対し立入調査を行い、水質汚染事故を未然に防止します。

【指標】危険物取扱事業者への立入調査実施率 12.1% (H25) ⇒ 42.8% (H36)

#### 給水方式の特徴



## 重点取組項目4 経営基盤の強化と連携の推進

施設の更新や耐震化に必要な財源を確保していくために、財務基盤を強化するとともに経営の効率化を進めていきます。また、これまでに作り上げてきた水道システムを将来にわたって持続していくために、次世代の担い手への技術の継承やパートナーシップの取組を進めていきます。

### 主要事業12 財務基盤の強化と経営の効率化

次世代 つながる 環境

今後、施設の更新や耐震化など事業費の増加が見込まれ、財政状況が厳しくなることから、収入の確保に努めるとともに、将来的にも過大な負担とならないよう企業債を適正に管理していきます。

また、業務の増加に対応するため、委託の内容や範囲を適宜見直し、経営の効率化を進めます。水道メーター検針業務は民間企業に委託する地区の拡大を進めます。

【指標】企業債残高 999億円（H26見込み）⇒ 790億円以下（H31）

### 主要事業13 技術力の確保・向上と国際貢献

次世代 つながる 環境

今後、多くのベテラン職員の退職が続く中でもこれまでに蓄積した技術や知識を次世代の担い手に確実に継承していくため、研修教材として水道技術の映像化（見える化）を進め、各種研修のさらなる充実を図ります。

また、開発途上国の水道技術の向上に貢献するとともに広い視野を持った職員を育成するため、国際貢献に取り組みます。

【指標】内部研修時間（職員1人当たり） 21.8時間（H25）⇒ 23.0時間（H36）



配水管接合実習



漏水修理実習

### 主要事業14 広域化の推進や多様な主体との連携

次世代 つながる 環境

人材不足や技術継承などの課題に直面している北海道内の水道事業体もある中で、それら事業体のニーズを踏まえ、課題の解決に向けて広域的な取組を進めます。

また、利用者の信頼の向上や技術研究の推進のため、多様な主体との連携を進めていきます。

【指標】道内事業体が参加する研修会等の年間開催回数 2回（H25）⇒ 6回（H36）

## 重点取組項目5 エネルギーの効率的な活用

低炭素社会と脱原発依存社会の実現を目指し、恵まれた札幌の地形を最大限に活用したエネルギー使用量の削減や再生可能エネルギーの導入を進め、環境負荷の低減に積極的に取り組みます。

### 主要事業15 エネルギーの効率的な活用

次世代 つながる 環境

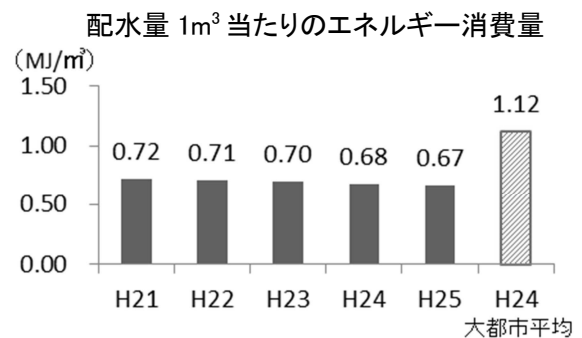
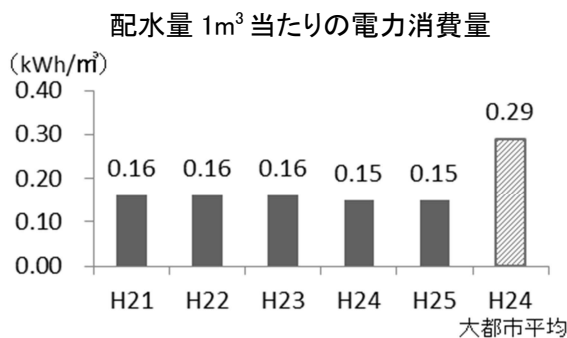
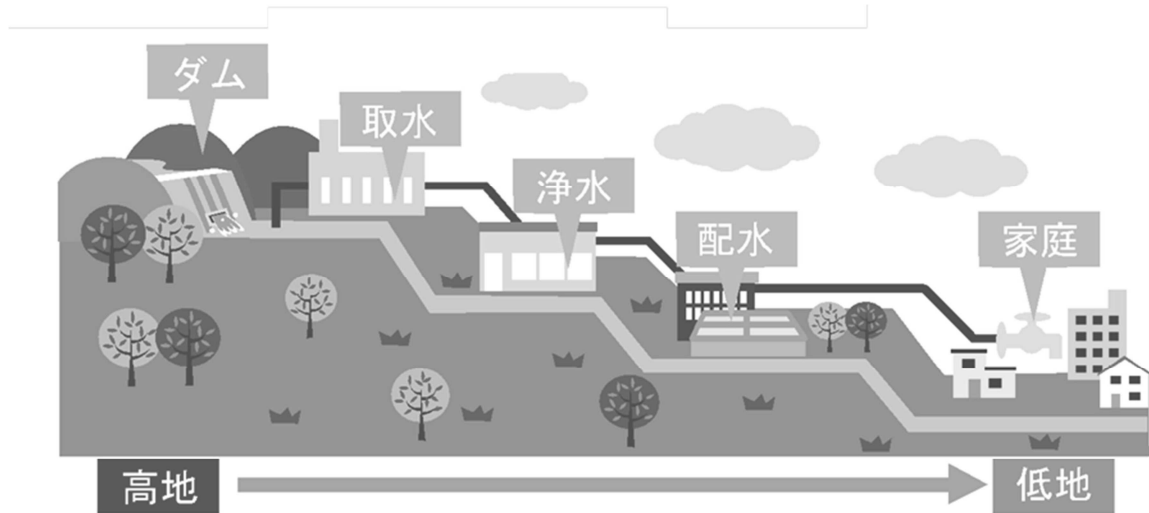
低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの導入を進め、平成31年度までに水力発電設備を平岸配水池と白川浄水場に導入します。加えて、平成33年度までに太陽光発電設備を中部水道センターと南部水道センターに導入します。

また、環境マネジメントシステムの運用など、環境配慮の取組を進めていきます。

【指標】再生可能エネルギー発電量 297万 kWh (H25) ⇒ 760万 kWh (H34)

#### 自然流下方式による配水

札幌市の水道システムは、豊平川扇状地の緩やかな傾斜など地形の特性を生かして、全給水量の約8割を自然流下方式によって配水しています。水が高いところから低いところへ流れる自然流下を活用するため、配水に使用する電力などエネルギーの消費量は他都市に比べて少なく、環境に優しいシステムとなっています。



※ 大都市平均は計画給水人口が100万人以上の13都市(札幌市、仙台市、さいたま市、東京都、川崎市、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市)の平均値です。

## 財政収支見通し

### 今後の財政運営

人口減少や施設の大規模更新など、札幌水道が大きな転換期を迎える中、水道事業を安定して運営していくためには、長期的な視点に立ち健全な財政を維持していくことが求められます。

今後の財政運営に当たっては、事業の着実な実施と企業債の適正管理を含めた適切な財政計画の両立を図りながら、将来へ向けた財務基盤の強化を継続して進めていきます。

また、料金制度のあり方についても、健全経営の持続を念頭に置き、今後の水の使用状況や負担の公平性の観点を踏まえて継続的に検討を進めていきます。

### 収支見通しの概要（平成 27～31 年度）

社会経済情勢の影響による変動が大きいため、これまで同様に財政収支見通しの期間は5年間としました。

収入の大部分を占める給水収益は今後も減少傾向が続く見込みとなる一方、事業費は施設の大規模更新や災害対策事業の実施などから増加が見込まれます。

これらのことから、財政状況は一層厳しくなりますが、引き続き収入の確保に努めながら、施設規模の見直しや延命化など、経費節減に向けた取組を進めるとともに、これまで留保してきた積立金などの財源を有効に活用していきます。

以上のことからこの5年間においては、大きな社会経済情勢の変化がない限り、現行料金のもとで健全経営を維持できる見通しとなります。

#### 財政収支見通し

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	合計
収益的 収支	収益的収入	464	462	460	457	458	2,301
	うち給水収益	419	417	415	415	415	2,081
	収益的支出	373	363	370	373	385	1,864
	うち人件費	40	40	40	41	41	202
	うち運営管理費 (うち計画事業費)	172	164	168	172	179	855
	うち企業債利息	23	22	20	19	18	102
当年度純利益（税抜）		71	75	69	64	53	332
資本的 収支	資本的収入	90	107	99	96	81	473
	うち企業債	40	40	40	40	40	200
	資本的支出	333	373	293	287	268	1,554
	うち建設改良費 (うち計画事業費)	200	234	209	209	200	1,052
	うち企業債償還金	182	225	205	197	193	1,002
うち企業債償還金		93	87	83	78	68	409
累積資金残高		60	1	8	12	15	—

【参考】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	合計
企業債残高	946	899	856	818	790	—
水道施設更新積立金残高	120	80	50	20	0	—

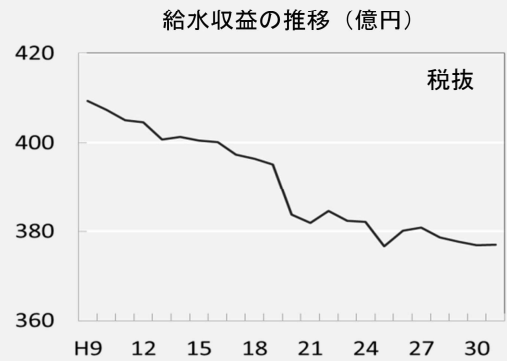
※消費税率は10%で、物価上昇の影響を考慮して試算した。

※計画事業費には事務費を含む。



## 1 給水収益

平成 27 年度以降は、人口の減少に伴い水道水の使用量も減少傾向で推移することが予想されることから、給水収益についても緩やかな減少を見込んでいます。



## 2 人件費及び運営管理費

人件費には、給料、手当及び賃金を現状の職員数で見込んでいます。

運営管理費には、通常の事業活動に必要な経費として、

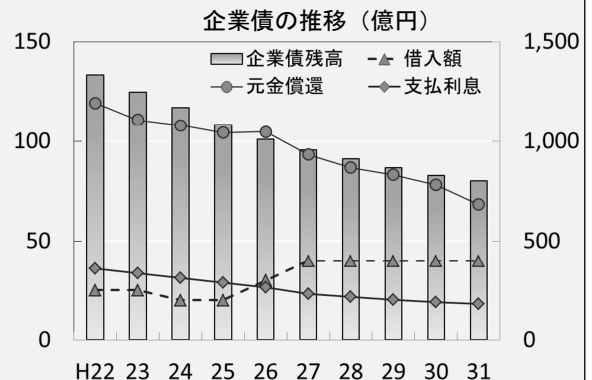
- ①配水管の修繕などの維持管理費用、②メーター検針や料金徴収にかかる委託料、③光熱水費や薬品費などを見込んでいます。

## 3 企業債

建設企業債は、各年度 40 億円に平準化して借り入れる予定です。

支払利息と元金償還額は、近年新規借入額を抑制してきた効果などから、減少していく見込みです。

なお、企業債残高は各年度において新規発行分以上に償還が進むことから、この期間中に約 210 億円縮減する予定です。



## 4 純利益及び累積資金残高

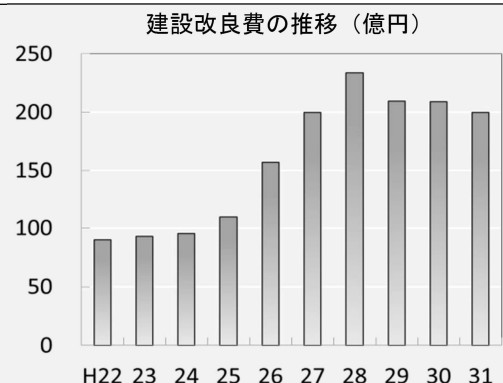
純利益及び累積資金残高は減少する見込みですが、積立金を財源として活用することにより事業運営に必要な資金は確保できる見込みです。

※純利益の中には現金収入のない収益が含まれており、その分は財源とはなりません。

## 5 建設改良費

施設の経年劣化に伴う更新事業や災害対策事業など、事業計画に基づく所要額を計上しています。

この5年間は、配水管更新事業や白川第3送水管新設事業などの計画事業が重なるため、建設改良費は増加する見込みです。



## 札幌水道ビジョン（案）へのご意見を募集します

「札幌水道ビジョン（案）」について、皆さまからのご意見を募集します。  
いただいたご意見は、「札幌水道ビジョン」を策定するための参考とさせていただきます。  
なお、寄せられたご意見に対する札幌市の考え方は、ホームページなどで公表します。

### 1 意見の募集期間

平成 26 年（2014 年）12 月 22 日（月）～平成 27 年（2015 年）1 月 23 日（金）【必着】

### 2 意見の提出方法

#### (1) 持参、郵送の場合

札幌水道ビジョン（案）本書の最終ページにある「ご意見記入用紙」を切り離し、ご意見等を記載した上で、下記まで持参していただくか、用紙の案内に沿って封書にしてポストに投函してください。（切手は不要です）

〒060-0041 札幌市中央区大通東 11 丁目 23 番地  
札幌市水道局 総務部 企画課 あて  
持参の場合は、水道局本局庁舎 3 階 企画課にご持参ください。  
（受付時間 平日 8 時 45 分から 17 時 15 分まで）

#### (2) ファックスの場合

「ご意見記入用紙」にご意見等を記載し、下記まで送信してください。

札幌市水道局 総務部 企画課あて ファックス番号：011-232-1740

#### (3) 電子メールの場合

メールの件名を「札幌水道ビジョン（案）について」として、ご意見とお名前、ご住所、年齢を記載の上、下記アドレスに送信してください。

メールアドレス：suido-vision@city.sapporo.jp

#### (4) ホームページから送信する場合

下記アドレスから札幌市公式ホームページをご覧ください、「ご意見入力フォーム」のページで必要事項を入力し、送信してください。

ホームページアドレス：  
[http://www.city.sapporo.jp/suido/c03/c03third/suido\\_vision.html](http://www.city.sapporo.jp/suido/c03/c03third/suido_vision.html)

※電話によるご意見の受付や、ご意見に対しての個別回答はいたしかねます。

※ご意見の提出に当たっては、住所・氏名・年齢をご記入ください。個人情報札幌市個人情報保護条例に従って適正に取り扱います。ご意見の概要を公表する際には、住所、氏名は公表せず、年齢の年代のみを掲載する予定です。

### 3 札幌水道ビジョン（案）本書及び概要版の配布場所

水道局総務部企画課（水道局本局庁舎 3 階）、各水道センター、市政刊行物コーナー（札幌市役所本庁舎 2 階 行政情報課）、各区役所総務企画課広聴係、各まちづくりセンター  
※札幌水道ビジョン（案）本書及び概要版は上記ホームページからも入手できます。